

1	音楽研究会		部会記録	
日時	平成30年7月4日			
部会名	歌唱部会		主任	原山 史子 (三ツ境小)
参加数	34名	司会	太田 絢子 (菊名小)	記録 向井 清佳 (鶴ヶ峯小)
研究 内 容	<b>研究部テーマ：子どもの意識の流れを生かし、音楽能力の高まりを目指した授業の在り方</b> <b>歌唱部会テーマ：子どもが、歌う喜びを感じながら、主体的に表現の高まりをめざしていく歌唱活動</b>			
	<p>1、子どもの考えを引き出す合唱指導  講師 石川小学校 宮崎 里子副校長先生</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「子どもの考えを引き出す」とは、子どもが自分で「こうしたい!」「ああしたい!」という思いをもち、そのためにどうしたら良いのかこれまでの学習をもとに自分の引き出しを利用して試行錯誤すること。</li> <li>・そのためには、アナリゼが肝となる。この楽曲の特徴は何か。(特徴が共通事項となる)特徴をもとに根拠をもってしっかり教えることが大切。</li> </ul> <p>○「南風にのって」 若松 歆 作詞・作曲  グループごとにアナリゼを行い、主題・授業展開を考える。</p> <p>①グループ「全体の響きを聴いて歌おう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3度の響きの美しさを味わせるために、トーンチャイムや代表児童と教師との二重唱を聴かせ、「こういう風に歌いたい。」という思いをもたせる。</li> </ul> <p>②グループ「曲想を生かした表現を工夫して歌おう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・縦書きの歌詞を見せ、「南風って?」「どんな気分?」とイメージを広げてから、範唱を聴く。</li> <li>・「どこまでも、どこまでも」は音が下がってきているので、「追いかけて〜」はmfにしたい。</li> <li>・「君と感じた〜」は休符がない部分。たたみかけるように歌いきりたい。</li> </ul> <p>③グループ「曲想を生かした表現を工夫して歌おう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サビから強弱記号をふせて考えさせたい。</li> </ul> <p>例)「どこまでも、どこまでも」は、音程が下がってくるので、2回目を弱く。  言葉がくり返されているので、2回目を強く。</p> <p>④グループ「曲想を生かした表現を工夫して歌おう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四分休符が多いのに「君と感じた〜」にはないのはどうしてだろう?と考えさせたい。</li> <li>・そのために拍打ち・リズム打ち・フレーズ交互唱等を取り入れ、休符に気付かせる。</li> <li>・休符がないことで思いを込め、クレッシェンドしていきたい。</li> </ul> <p>⑤グループ「曲想を生かした表現を工夫して歌おう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サビからのf、mfを工夫させたい。</li> <li>・1番の「南風〜」はデクレッシェンド指定。2番には特に指定がないので、考えさせたい。</li> </ul>			

<講師の先生より>

- ・主題はどちらでもよい。
- ・スケールや和音進行だけを子どもに聴かせ、どんな色味なのか。和音進行に伴うエネルギーの推移とテンションの変化を感じ取らせるとよい。
- ・サビからのリズムカルで躍動的な部分は8ビートのリズムを打たせるなどして感じ取らせるとよい。
- ・頭休符があってもフレーズはつながっている。人が歩いているイメージを持たせ、休符で落ちないように声をかけるとよい。
- ・3度の響きは子どもにとっては近すぎて感じ取りにくい。「全体の響きを聴いて歌おう」の主題でいくなら、最後の6度の響きをていねいに感じ取らせるとよい。あいまい母音での母音唱（奥歯が付かないよう口をあけながらの母音唱）はレガート唱や響きの感じ取りに有効な手立てとなる。
- ・子どもが1時間の中で何を学んだのかが振り返りカード等に表現されるとよい。